

令和3年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	介護助手養成 ちいすけ水戸		評価欄 A
協働事業者	NPO 法人ちいきの学校	市担当課	介護保険課
事業の概要	<p>本事業は、介護職が専門職の高い業務に専念できるよう、アクティブシニア層を対象に、介護職の周辺業務（話し相手や軽作業等）を担う「介護助手」として育成、就労を促し、介護サービスの質の向上につなげる。また、アクティブシニアが社会参加することで、心身の健康維持を図り、「地域で支えるいきいき健康と安心長寿」の実現をサポートすることを目的としている。</p> <p>令和3年度は、介護助手の養成を目的として「ちいすけ水戸」講座を年5回実施した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、アクティブシニアを対象とした介護人材確保を目的としており、過酷な介護現場のイメージを払拭するような明るく、楽しい講座は大変素晴らしいことである。協働事業2年目として、5回開催した講座には87名が参加し、そのうち9名が介護助手として就労したことは評価できる。</p> <p>講座受講者を対象としたアンケート結果から「介護助手として働きたい」と感じている方が多いことを受け、今後は、さらに就労につなげる仕組みづくりも検討いただきたい。現在の講座内容は、参加者の意欲づくりに重点を置いたものであり、専門職としての就労ではなく、周辺業務を行う助手への就労として、適切なアプローチであると考え。しかし、協働事業の目的である介護人材の確保という側面から見ると、「働きたい」と回答した受講者を実際に就労へ導くシステムの改善の余地も見受けられる。アンケート調査には、より受講者の生の声を聞くことができるよう協働事業に対する項目を設定するなど、さらに工夫を凝らしていただきたい。</p> <p>令和4年度が協働事業最終年度となることを踏まえ、アクティブシニアの方々が活躍できる場の創出に向けて、引き続き市協働担当課と情報共有を図りながら、地域貢献の機会の提供を継続するとともに、高齢者の社会参加がもたらす「三方よし」の仕組みの構築を目指していただきたい。</p>		

令和3年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	親子で楽しむ森あそび 森っこ		評価欄 A
協働事業者	森っこ	市担当課	農政課
事業の概要	<p>本事業は、乳幼児とその保護者が、森を含む身近な自然の中に気軽に集まることができるよう「森っこ活動」を実施する。子どもたちは五感を使った成長をのびのびと育み、大人には心を開放し元気になってもらうとともに、様々な自然体験を通じ、身近な自然、草花、生き物を大切に思う豊かな心や自然と共生する小さな芽を育むことを目的としている。</p> <p>令和3年度は、水戸市森林公園、保和苑、逆川緑地等で年間27回の「森っこ活動」を開催した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、水戸の魅力ある自然資源を活用し、和やかな雰囲気の中で、親子で楽しむ場を提供することで、他団体にはない子育て支援サービスを行っている。直接自然と触れ合える体験から得られるものは多く、子どもたちの情操教育に加え、水戸の良さを伝える素晴らしい事業であった。</p> <p>ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な事業やイベントが中止や延期を余儀なくされたなか、貴団体の多種多様な企画を定期的実施してきた判断力、行動力は非常に評価できる。</p> <p>また、令和3年度には協働事業提案制度終了後の自主事業を見据えて、新たにSNS等を利用した広報活動をはじめ、多くの活動を行い、幅広くつながりを創出できたことは大変素晴らしいことである。</p> <p>令和3年度が協働事業最終年度であり、すでに自主事業を実施しているところだが、今後も市との協働を続けていきたいという思いを強く感じた。今後も市と連携を図りながら、子育て支援のニーズを捉えた、更なる飛躍を期待している。</p>		

令和3年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	LD, HSC の子どもが育つ環境を整える事業		評価欄 B
協働事業者	じゃあまいいかねっと	市担当課	子育て支援課 総合教育研究所
事業の概要	<p>LD（学習障害）やHSC（人一倍敏感な子）などの特性がある子は、周囲から誤解を受けやすく、適切な支援を受けられないことがある。本事業は、すべての子ども達の個性が尊重され、家庭や学校、社会の中で、その子らしく生きられる環境を整えることを目的に実施する。</p> <p>令和3年度は、学習に不安のある子の親のための情報交換会のほか、日本語よりも英語の読み書きにつまずくことも多い LD の子どもたちのため、英語学習支援等を実施した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、LD や HSC といった特性を持つ子どもたちが適切な支援を受けられるよう、環境を整えるものであり、事業を実施した2年間において、当事者である学習に不安のある子の親のニーズの把握に努めた活動の結果、一定の成果を上げたことは評価に値する。</p> <p>一方で、知識や情報は、事業実施前と比べ広まってはいるものの、未だ情報不足であることは否めない。貴団体開催の研修会においても、募集人員に対する参加者が非常に少なく、情報共有の機会を設けてはいるが、効果を得られたとは言い難い。今後は SNS 等の活用をはじめ、有効な広報手段について模索し、創出した情報提供の場において一定の効果が得られるよう検討いただきたい。</p> <p>また、協働事業を行うにあたって重要なことは、コミュニケーションを取り、十分に情報を共有すること、加えて、協働相手の特性を理解しあうことであると考え。本事業においても、貴団体、総合教育研究所、子育て支援課の3者間において、話し合いの不足、方向性のずれ違いなど、協働事業を進めるにあたって根本的な課題があると感じられる。令和3年度で本事業は終了となるが、市協働担当課からの指摘を受け止め、解決するために尽力いただくようお願い申し上げます。</p> <p>LD や HSC といった特性を持つ子どもとその親への支援は、社会的課題を的確に捉えた素晴らしい事業である。今後は、協働事業提案制度を活用しない自主事業となるので、これまでの2年間の経験を生かしながら、貴団体の活動目的が達成できることを期待する。</p>		

令和3年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	公園にハートいっぱいのを蒔こう		評価欄 A
協働事業者	NPO 法人 Happy リレーいろいろ	市担当課	公園緑地課
事業の概要	<p>本事業は、千波公園少年の森において、フードバンク、子ども食堂の実施、清掃活動、公園で遊ぶ子どもの見守りなどの社会貢献活動を通して、公園と地域をつなぎ、多世代交流が図れる公園づくりを目指すことを目的としている。</p> <p>令和3年度は、防犯啓発活動31回、フードバンク・フードロス啓発活動30回のほか、農業支援活動、炊き出し訓練等、合計103回にわたり公園活動を実施した。</p>		
委員会意見	<p>本事業では、千波公園少年の森において、清掃活動や見守り活動が毎日のように行われており、貴団体の活動によって公園の安全と景観が保たれている。</p> <p>今後も、市民の安全・安心を感じられる公園を目指し、是非、少年の森における活動を継続してほしい。</p> <p>本事業は、貴団体が主体となって活動しているように見てとれるが、実際は市協働担当課との良好な協力関係のもと、多くのボランティア団体や関係者と交流を広めながら、現場の声を行政へフィードバックするなど、公園と地域をつなぐ一面も持ち合わせており、一定の評価に値するものと考えられる。</p> <p>一方、一部エリアを使用している少年の森から、活動の発端である東野町へ帰還して事業を実施したい旨報告があった。</p> <p>委員会としては、前述したとおり、少年の森における利用者の安全面を考慮し、令和4年度提案にもあったように、少年の森を拠点とした活動を当初事業計画及び収支計画に沿って執行していただきたい。</p> <p>令和4年度は、事業2年目を迎え、引き続き市協働担当課と連携しながら、計画に則り活動を行ってほしい。</p>		

評価過程・評価基準

【 評価過程 】

5月27日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告書をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見した。

【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×8人＝160点満点

			採点基準
A	評	価	120～160点
B	評	価	80～119点
C	評	価	40～79点
D	評	価	0～39点

☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企画・計画段階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o (実 行)	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k (評 価)	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n (見 直 し)	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5